

連携先	WinActor	利用シーン	業務自動化	業種	製造業
-----	----------	-------	-------	----	-----



IT部門が業務のデジタル化を牽引

年間1万4千枚のペーパーレス化やリモートワーク対応でも活躍

株式会社ユタカ技研

静岡県浜松市東区豊町508番地の1

URL : <https://www.yutakagiken.co.jp/>

導入背景

株式会社ユタカ技研は、自動車部品の製造・販売を行うHONDAグループ企業。自動車用排気システム、トルクコンバータ等の駆動系製品、2輪用制動系製品、モーターやヒートコレクター等の電動化対応製品を通じ、地球環境に貢献する製品の研究・開発から生産まで一貫した体制で行っている。同社では社内システムのデータ連携基盤として2014年にASTERIA Warpを導入。その後、業務自動化を推進していく際にノーコードによる高速開発が実現可能なASTERIA Warpを社内標準開発ツールとして活用。各部署の業務自動化・効率化に取り組んでいる。

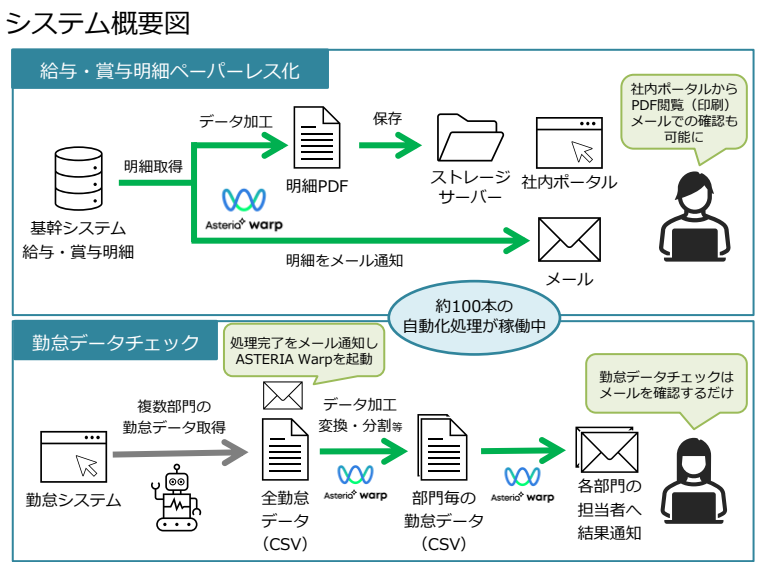
課題	導入	効果
<ul style="list-style-type: none"> 紙による給与明細の配布 国内及び海外拠点を含む全社員の給与・賞与明細を紙で配布していたが、印刷から郵送まで手作業で行う担当者の労務費と海外への郵送費に年間140万円以上のコストがかかっていた。 複雑なデータ整形 勤怠入力エラーチェックは各部署の担当者が手作業で検索・確認していたが、エラーがなくても毎日確認する必要がある手間となっていた。RPAツール「WinActor」でチェック業務の自動化を検討したが、データ整形する項目数が多く処理が複雑化。また、全部署のデータチェック及び結果通知をWinActorで行うと処理に時間がかかり非効率的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> バックエンドからフロントエンドまで一貫通貫で開発 基幹システムから給与・賞与情報を取得しPDF変換、従業員にメール通知するまでをASTERIA Warpで開発。また、intra-martで構築している社内ポータルに専用ページを設け、給与明細PDFの閲覧・印刷が可能に。 WinActorとASTERIA Warpを連携 画面からの操作が必要な勤怠システムへのログインとエラーリストの検索、取得をWinActorで自動化。後続のデータ加工及びメールによる結果送信はASTERIA Warpで行うことで処理速度を向上。また、データ加工では複数項目を1画面で設定できるため可読性が向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間1万4千枚のペーパーレス化を実現 給与・賞与明細電子化を実現し、年間140万円の郵送・労務コスト削減に加え1万4千枚の紙の使用をゼロに。また、既存システムを組み合わせて内製することで導入コストを低減。 WinActorとの連携で業務自動化を加速 画面操作はRPAツールで行い、データベース連携やデータ変換・加工、メール送信などにASTERIA Warpを用いることで、どちらかだけでは実現が難しい自動化も対応可能に。 リモートワークへの対応 印刷業務や配布、受取など出社が必要な業務を自動化することでリモートワークへスムーズに対応。

業務自動化実現のポイント

- 業務自動化・効率化はシステム部主導で内製**
内製することで担当者の意見を聞きながら細かな調整が可能。
- ノーコードによる高速開発**
毎月発生する自動化依頼に対応するためASTERIA WarpやRPAツールなどのノーコードツールを活用して高速開発。
- 業務担当者が業務改善効果を実感**
自動化・効率化により業務が改善し担当者が負荷軽減を実感することで他の非効率な業務の改善案を積極的に行うように。

ASTERIA WarpとWinActor使い分け

- 画面操作が必要な処理にWinActorを使用**
ASTERIA Warpでアクセスできない画面操作が必要な処理はWinActorを使用。その他データ加工・変換処理やデータベースへの接続、メール配信などの処理は使い慣れたASTERIA Warpを使用。特にデータ加工・変換は、ツールの特性上開発・メンテナンスがしやすいASTERIA Warpで行う。



お客様から一言

ASTERIA WarpのココがGood!



システム部
高井 一輝 様

自動化処理は毎月1本ペースで作成して、今では約100本の処理が稼働しています。ASTERIA Warpのノーコード開発により業務担当者の業務自動化・効率化相談に迅速に対応ができ、さらに修正も容易なので担当者の意見を反映させながら一緒に進めていくこともできます。業務担当者が自動化・効率化の効果を直接実感できるため、改善提案が次々とできており好サイクルを生んでいると感じています。今回初めてASTERIA WarpとWinActorを連携してみました。両ツールの苦手の操作を補うことで自動化できる範囲がさらに広がり、今後の展開がしやすくなりました。